



郵政歴史文化研究会編

郵政博物館 研究紀要

令和元年度 第11号 (2020年3月)



表紙解説

『郵便現業絵巻』（久保田米僊 ^{べいせん} 郵政博物館収蔵）⁽¹⁾

第七図 鉄道郵便車への郵便物の積み込みと車中区分

「かうべ（神戸）」行きの鉄道郵便車に郵便物が積み込まれる様子が描かれている。鉄道郵便車とは、郵便物を運送する鉄道車両のことであるが、一車両全部が郵便物の運送に使用される「郵便（専用）車」のほかに、一車両が郵便室、荷物室、客室等二分または三分に区画された「郵便合造車」がある。図の車両は後者のタイプで、客室側には既に乗客が座って発車を待っている様子が描かれている。郵便車内には区分柵と押印台が備え付けられており、右上の円内には、鉄道郵便係員が夜中の車中にて積み込まれた郵便物の区分作業を行っている情景が描かれている。車中区分は明治25（1892）年4月より実施された。

第八図 東京市内の郵便支局の前景

東京郵便電信局管内の郵便支局前の情景が描かれている。雨が降る中、饅頭笠をかぶり、制服の上に雨合羽をまとった郵便外務員たちが業務に従事している。往来を行き交う大衆は、着物に番傘（和傘）を差した人、洋装にこうもり傘（洋傘）を差した人、雨合羽をまとい刀を携えた警察官等服装もさまざまで、和洋入り交じった当時の服飾文化がうかがい知れる。図中に雨は描かれていないが、右上のキャプション“Branch Post Office, Tokyo”において、雨が激しく降っている様子が夥しい斜線で表現されているのが面白い。

1 明治26（1893）年、アメリカ合衆国シカゴ市で開催された「コロンブス世界博覧会」に出品するために制作された作品。詳細は、『郵政博物館 研究紀要』（第8号、2017年）を参照。